

| | | |
|---------------------------|------|-----------------------|
| 近畿地方整備局和歌山河川国道事務所 和歌山県 | 配布日時 | 平成22年 4月30日 10時00分 |
| 資 料 配 付 | | |

| | |
|-----|---|
| 件 名 | <p align="center">自転車通行環境対策実施試行案(社会実験) の評価及びモデル地区の整備方針 ～「和歌山県自転車通行環境懇談会」の最終報告～</p> |
|-----|---|

| | |
|-----|--|
| 概 要 | <p>近年、自転車の事故は増加傾向にあり、特に歩行者と自転車の交通事故は、最近10年間で約4.5倍に増加しています。そこで、自転車・歩行者が安全に安心して通行できる環境に見直していくため、平成20年1月17日に今後の自転車通行環境整備の模範となるモデル地区として、警察庁と国土交通省により、和歌山県内の2地区（和歌山市駅前・吹上砂山地区）が指定されました。</p> <p>これらの地区において、自転車通行環境の整備方針を検討するため、和歌山県、和歌山市、和歌山県警察本部、和歌山河川国道事務所の関係機関で「和歌山県自転車通行環境懇談会」を設置しました。</p> <p>第3回懇談会（3月23日開催）において、「自転車通行環境対策実施試行案(社会実験)」の実施によるアンケート調査、その評価を行い「モデル地区の整備方針」について策定いたしましたので、お知らせいたします。</p> |
|-----|--|

| | |
|-----|-------|
| 取扱い | ----- |
|-----|-------|

| | |
|------|---|
| 配布場所 | 和歌山県政記者クラブ 和歌山県地方新聞記者クラブ 和歌山県政放送記者クラブ |
|------|---|

| | |
|------|---|
| 問合せ先 | <p>○国土交通省近畿地方整備局和歌山河川国道事務所 副所長 杉若 武（内線 205） 道路管理第二課長 三浦 行雄（内線 441） TEL 073-424-2471(代表)</p> <p>○和歌山県県土整備部道路局道路保全課 副課長 野村 郁二 副主査 中村 圭吾 TEL 073-441-3117(直)</p> |
|------|---|

自転車通行環境対策実施試行案(社会実験) の評価及びモデル地区の整備方針

1. 経緯

- 歩行者と自転車の交通事故が増加傾向にあります。
- 和歌山市内の歩道では自転車と歩行者が混在し危険な状態になっています。

- 和歌山市内の2地区(和歌山市駅前地区、吹上砂山地区)が今後の自転車通行環境整備の模範となるモデル地区に指定されました。(参考5)

- これらの地区において、自転車通行環境の整備方針を検討するため、和歌山県、和歌山市、和歌山県警察本部、和歌山河川国道事務所は、「和歌山県自転車通行環境懇談会」を設置しました。(参考4)

- 第1回、第2回と懇談会を経て、現況課題の把握やヒヤリハットマップの作成、自転車通行環境対策実施試行案(社会実験)の実施等を行ってまいりました。(参考2)
このたび、第3回懇談会では自転車通行環境対策実施試行案(社会実験)の評価を行い、モデル地区の整備方針を策定いたしました。(参考3)

2. 自転車通行環境対策実施試行案(社会実験)の評価

<国道26号、42号>

- 安全性・走行性の観点での歩行者・自転車通行部の適切な幅員設定が必要である。
- 歩行者通行部と自転車走行部の明確化(カラー舗装、分離区間の起終点部など)が必要である。
- バス停、交差点、店舗前などの動線交錯部での処理方法の検討が必要である。
- 視覚障がい者が確実に歩行者部を通行できるような対応策の検討が必要である。

<県道新和歌浦梅原線>

- 通行幅が狭いため自転車が車道に飛び出すなど、現況歩道幅員の中では安全な通行空間の確保ができないことから、道路幅員全体を見た対策の検討を行う必要がある。

3. モデル地区整備方針

<国道26号、42号>

- 自転車歩行者道内で自転車と歩行者の通行位置を路面標示やサイン等で明示する「路面標示タイプ」とする。

<県道新和歌浦梅原線>

- 今後利用者等の要望、事故状況等を踏まえ、自転車道の整備のあり方について検討する。

1. 和歌山県自転車通行環境懇談会の流れ

平成21年8月4日 第1回和歌山県自転車通行環境懇談会



- 和歌山自転車通行環境懇談会の設立
- モデル地区の整備に向けた検討方針

平成21年8月 自転車通行環境に関するアンケート調査実施



- アンケート結果の分析・課題の整理
- ヒヤリハットマップの作成



平成21年11月9日 第2回和歌山県自転車通行環境懇談会



- 対策実施試行案の検討
- 自転車通行空間ネットワーク計画の検討

平成22年1月 自転車ヒヤリハットマップの公表
自転車通行環境に関する社会実験の実施



平成22年1月 社会実験に関するアンケート調査実施



平成22年3月23日 第3回和歌山県自転車通行環境懇談会

- 対策実施試行案の評価
- モデル地区の整備方針策定

2. 自転車通行環境に関する社会実験の実施

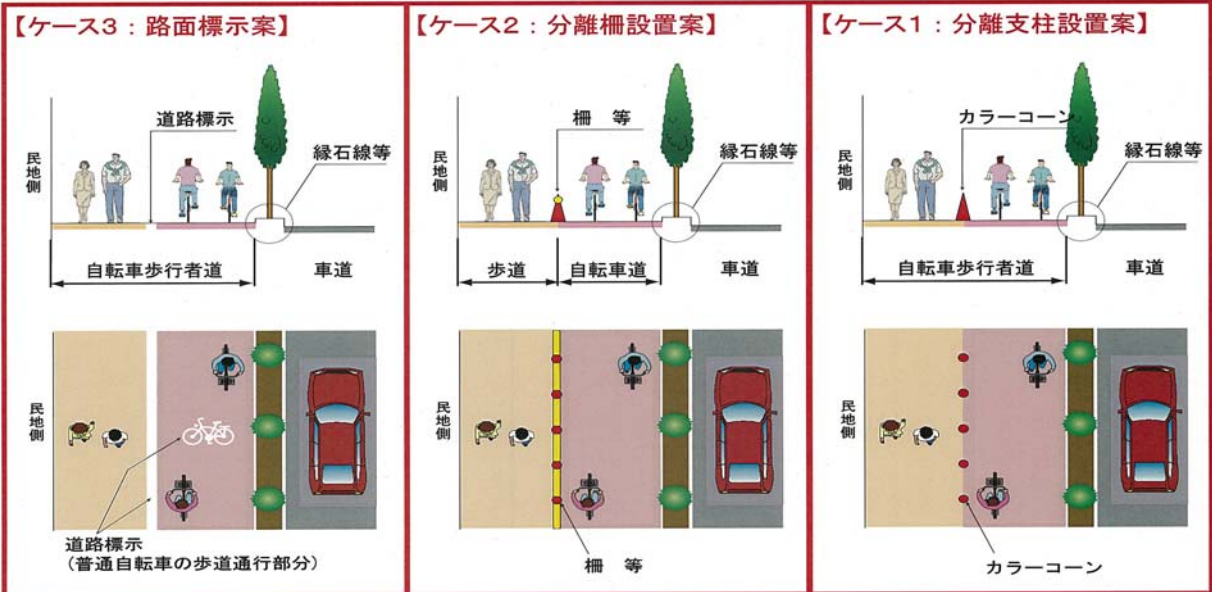
○自転車の安全で快適な利用促進を図り、既存の道路空間を有効に活用した自転車通行環境整備を目指すため、歩行者と自転車の分離を試みる社会実験を次のとおり実施しました。なお、その際、実験の効果や影響を検証するため「アンケート調査」を実施しました。

○実施日時：平成22年1月18日（月）
～20日（水）
午前7時～9時
実験箇所①：【国道26号】
（国道南側気象台から東側の歩道）
実験箇所②：【県道新和歌浦梅原線】
（和歌山市民会館前南側の歩道）

○実施日時：平成22年1月25日（月）
～27日（水）
午前7時～9時
実験箇所③ 【国道42号】
（国道東側NHK前の歩道）



- ・歩行者と自転車の分離構造は、以下の3タイプにより実験しました。なお、実験箇所②では、ケース1、3の実験となります。
- ・利用者の方々へ各ケースを利用した感想等についてアンケート調査を実施しました。

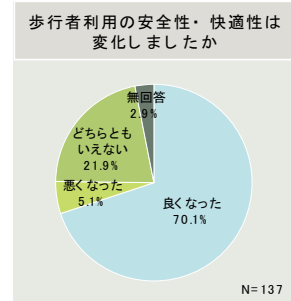
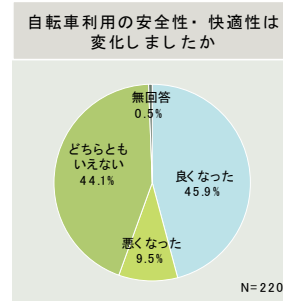


○自転車通行環境対策実施試行案(社会実験)に関するアンケート結果

＜国道26号、42号＞

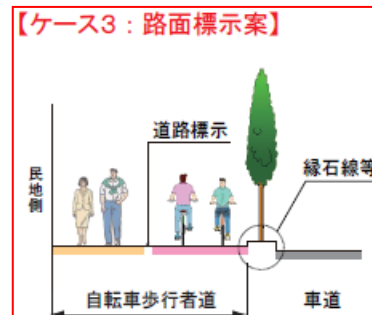
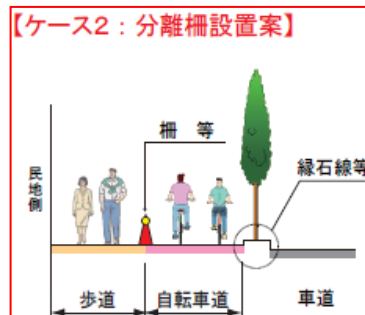
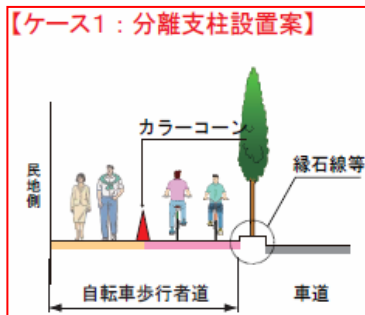
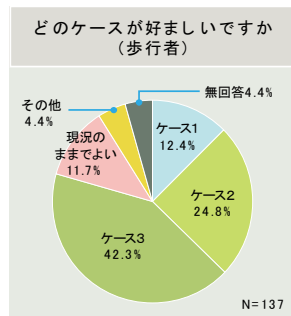
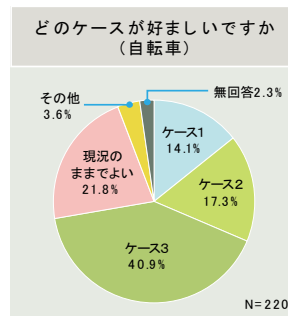
自転車と歩行者を分離することに対する評価

- 歩行者として利用した人の約70%が「良くなった」と評価
- 自転車ででの利用の場合も約半数が「良くなった」と評価している一方で、歩道幅が狭くなることによる走行性の低下も指摘



好ましい分離方法

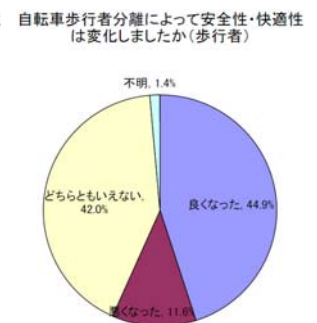
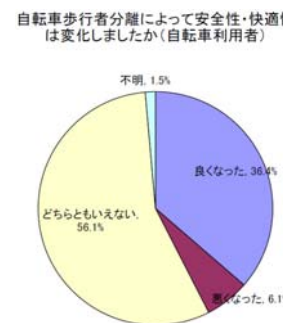
- 歩行者、自転車とも路面標示のみで分離するケース3の評価が約4割と最も高い
- 構造物での分離は自転車同士がすれ違う際、圧迫感を感じることや、夜間危険、等の意見があった。



＜県道新和歌浦梅原線＞

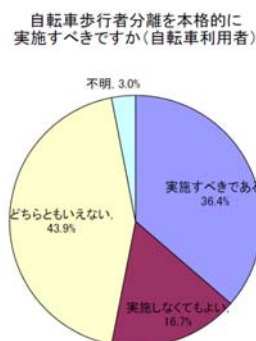
自転車と歩行者を分離することに対する評価

- 約4割が「よくなった」と回答したが、自転車利用者の約6割、歩行者の約4割が「どちらともいえない」と回答。
- 現況の幅員では自転車同士がすれ違えないとの意見があった。



歩行者自転車分離を本格的に実施することに対する意見

- 本格的な実施については一定の賛成意見はあるが、反対意見、消極的意見も比較的多い結果となった。



3. モデル地区の整備方針

自転車通行環境整備の基本方針

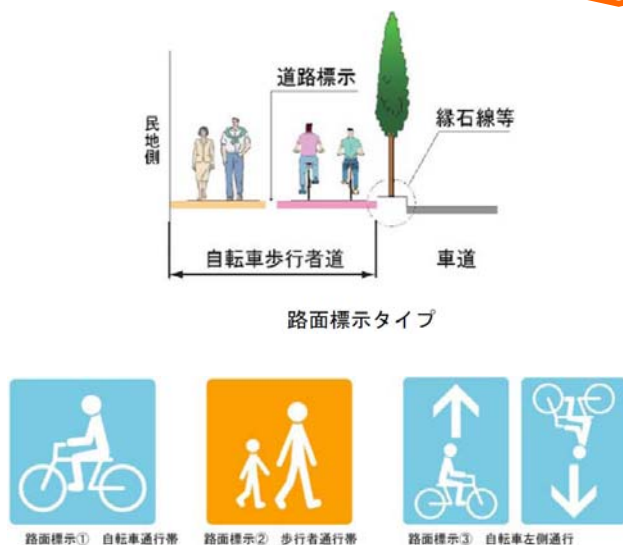
- 自転車のみでなく、歩行者や自動車等の他の交通モードにも配慮した道路空間とする。
- 歩行者の安全性を最優先に考え、自転車と歩行者の通行空間を分離することを基本方針とする。
- コスト縮減および既存ストック活用の観点から極力既存の道路空間を活用し、現況の道路幅員の中で再配分する。



<国道26号、42号>

モデル地区整備の方針

- 既存ストック活用の観点から現況の歩道幅員の中で再配分する。
- 社会実験における歩行者・自転車利用者ニーズを考慮
- モデル地区の道路状況や社会実験での整備に関する問題点等を考慮し、路面標示による自転車、歩行者の通行空間明示を行う。
- 自転車、歩行者誘導サインの道路管理者間の統一を図る。



整備（路面標示）のイメージ



- ライン・カラー舗装や標識により通行帯区分を明示

<県道新和歌浦梅原線>

モデル地区整備の方針

- 今後利用者等の要望、事故状況等を踏まえ、自転車道の整備のあり方について検討する。

4. 「自転車通行環境懇談会」

和歌山県自転車通行環境懇談会は、和歌山県内において「自転車通行環境整備モデル地区」として定めた2地区（和歌山市駅前地区、吹上砂山地区）において、自転車通行環境の整備方針を検討するため、平成21年8月4日（第1回懇談会）に設置されました。

8月には、沿道自治会、近隣の中学・高校等にご協力いただき、自転車通行環境に関するアンケート調査を実施しました。

第2回懇談会（11月9日）では、アンケート調査結果を踏まえ、ヒヤリハットマップ、自転車通行環境モデル地区における歩行者と自転車の分離試行案、自転車通行空間ネットワーク計画等の検討がなされました。

このたび、歩行者と自転車の分離を試みる社会実験を実施しました。

今回、社会実験の結果をとりまとめ、モデル地区の整備方針を策定します。

○委員名簿

| 委員 | 氏名 | 所属 |
|----|--------|----------------------------|
| 座長 | 畠山 貴晃 | 和歌山市 副市長 |
| 委員 | 辻本 勝久 | 和歌山大学経済学部市場環境学科 准教授 |
| 委員 | 吉田 長裕 | 大阪市立大学大学院工学研究科 講師 |
| 委員 | 尾花 正啓 | 和歌山県県土整備部 道路局長 |
| 委員 | 中村 富佐夫 | 和歌山県警察本部交通部 参事官 |
| 委員 | 福岡 彰三 | 国土交通省近畿地方整備局道路部 道路情報管理官 |
| 委員 | 島村 喜一 | 国土交通省和歌山河川国道事務所 事務所長 |

5. モデル地区位置図

